

「近づきたいね、暮らしと政治」をスローガンに、1990年に地域の女性たちが中心となり設立した市民の政治団体です。

江戸川生活者ネットワーク

それゆけ!レポート Vol. 128 2023.11.20

〒132-0033 江戸川区東小松川3-35-13-205 / 発行人: 藤居 阿紀子 / 連絡先: ☎03-5607-5975



木のぬくもりが感じられる共用部分

今年8月、江戸川区に「NPO法人起点が運営する、女子の自立援助ホーム [L'espoir(レスポワール希望)]」が、江戸川区の元職員により、開設されました。「L'espoir」は、義務教育終了後、何らかの理由で家庭を離れたり、働かなければならない原則15歳から20歳までの子どもが、スタッフと共に暮らしながら社会で自立して生きていくための準備をしていく家です。「子どもはどの年齢でも守られてよい存在であるにもかかわらず、この年代の子どもたちは支援からこぼれ落ちていく」という気づきから、子どもたちの居場所を増やしたいと決意。2022年にNPO法人を設立、家庭に居場所のない10代の女の子の生活の場として、自立するまで安心して暮らせる環境を提供し、退所後もよりどころとなるようなホームを開設するために、クラウドファンディングや寄付

江戸川区では児童相談所「はあとポート」が、保護者のいない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行う、社会的養護に取り組んでいます。社会的養護のもとで暮らす子どもたちは児童福祉法のもと18歳になると「自立」を求められ、児童養護施設や里親家庭から卒業していきます。児童養護施設

義務教育終了後の若者の自立に向けた支援の取り組みについて

社会的養護下から自立に向かう若者を支援する

保護者がいない、または保護者による養育が難しいと判断された子どもを、公的責任によって養育・保護する仕組みを「社会的養護」といいます。2022年3月末に出された厚労省子ども家庭局の資料によると、社会的養護を行う対象児童数は、全国で約4万2千人です。こうした要保護児童を支援する施設として年齢や状況に合わせた施設や仕組みなどがあります。

江戸川区に開設した自立援助ホーム

には自立支援コーディネーターが配置され、退所後について子どもと共に進路を考え準備しています。進学する場合、学費や生活費について、また働く場合も同様にシミュレーションをしています。こうした退所後支援もなされるようになりましたが十分ではありません。当事者が施設を退所した後、何に困っているのか、何が必要なのかもつと理解することが大事であり、さらに社会全体で支援する制度の充実が求められます。

社会的養護下の若者への就学支援助成～東京都 ソーシャル・エンジェル・ファンド

「ソーシャル・エンジェル・ファンド(SAF)」は、東京都が金融事業者による社会貢献事業を推進するため、2021年よりスタート。貧困の連鎖を断ち切り、誰もがチャレンジできる地域社会の強化をめざし、ひとり親世帯向けに加え、今年度から社会的養護下の若者向け就学支援の助成も実施。原資は、東京都の「ESGファンド※」と市民からの寄付。

対象は、都内の自立援助ホームに入所している若者で、上限は一人あたり10万円。今年度の予算は40万円。申請書等は各ホームに配付されており、希望者は12月1日(金)必着で申請可能。

「一般社団法人生活サポート基金」が「首都圏若者

サポートネットワーク」「認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ」と連携して運営。

「SAF」では、都内の社会的養護下の若者の就職に向けた体験就労の費用助成や、ひとり親世帯向けの就労相談の費用助成及び無利子無担保貸付も実施。詳細は「生活サポート基金」まで。(TEL/03-5227-7260 アドレス/info@ss-k.jp)

※ESGファンド ……E(環境、Environment)、S(社会、Social)、G(企業統治、Governance)。地球温暖化対策や女性の活躍、社外取締役の選任などに積極的に取り組む企業の姿勢を投資判断に活用する投資。

などを募りながら開設にこぎつきました。厚労省の資料では、このような自立援助ホームは全国に229か所、定員は1,575人でしかなく、ひとりの人間として生きていく基本的な力を育む養育ができる自立援助ホームの役割は重要であり、もっと増やす必要があります。社会的養護を経験した若者のリアルな声を取り上げた映画「REAL VOICE」となたでも見るることができます。「虐待は大人になって終わらなご。https://real-voice.studio.site/」



江戸川ネット会員の体験談

若者が自立するまでの支援について

コロナ禍の真っ只中2021年4月から2023年3月までの2年間、ひとりの若者の巣立ちに伴走しました。D君は、千葉の風光明媚な場所にある東京都の児童養護施設の出身でした。

児童養護施設で暮らすD君のような若者は、当時の制度では、18歳となった年度の3月末をもって施設を退所せねばならず、社会的養護のもとでこれまで手厚く保護されていた環境からいきなり自己責任の論理がまかり通る一般の社会に、いわば放り出されてしまうという状況でした。

高校を卒業し施設を退所したD君は、東京市部にある自立援助ホームで暮らすことになりました。D君について、私は「年齢と比べて精神的にも身体的にも幼い」との印象を持っていました。高校卒業後も社会的養護のもとで生活できることに少し安心しました。D君とは、月に一度、基本的には対面で話をしたり、何かレクレーションのなことをしていましたが、2021年当時、国内はまだ「コロナ」が猛威を振るっている時期で、なかなか直接会うことができず、もどかしさを感じたものでした。

東京市部にある物流会社で働き始めたD君は、華奢な体形で体力があるとはいいがたいタイプでしたが、幸いなことに体力的な自己管理はきちんとしてきており、休日もしっかりと休養を取り、日々の労働に向き合っていました。金銭管理の面はどうだろうか、ということも少し心配もしていましたが、D君のキャッシュカードを自立援助ホームの職員さんが預かってくれたため安心でした。

2年間に二人でいろいろなところへ行きまし。東急ハンズでの買い物、新宿の花園神社へのお参り、モンハン酒場、吉祥寺のインドカレーなど。最後に二人で行ったのは、秋の高尾山で、ふもとにある温泉に一人で浸かりました。お風呂で眼鏡を取ったD君の顔が急に男らしく凛々しく見え、「大人の男になるんだな」と思いました。もっと伴走したい気持ちもありましたが「自立の時のだろう」と思いこのボランティア活動を終了しました。

1400本の樹木を伐採?!

ネットニュースなどでも話題になった葛西臨海水族園のリニューアル計画に伴う、樹木への影響を確認するために、生活者ネットワークの岩永やす代都議と共に江戸川区民の方、江戸川・生活者ネットワークメンバー合わせて10名で、現状を聞き、整備予定地を視察しました。

新水族園の予定地は?

現水族園の課題について、バリアフリーが整備されていないこと、東京湾が汽水域であるために水槽で使用する海水を八丈島から運んでこなければならぬことなどの説明を受けました。

整備予定地の案内と新水族園の計画を説明してくださったのは、建設局公園緑地部 江口再生計画担当課長と村上課長代理です。

新水族園予定地は、現在の水族園の入口正面に水が流れている堀の奥で、今は平らで空き地になっています。それに加えて現水族園の敷地内の「淡水生物館」を取り壊し、この跡地も含めた場所に建設する予定です。「淡水生物館」は、田や池沼、溪流など東京周辺の水辺が再現されていて、



建設予定地で説明を聞く

魚だけでなく両生類や水草などの観察もできる施設です。施設周辺も含めてこの環境ができれば、10年かかると水族園の杉野副園長が話してくださいました。江戸川ネットとしてそのような施設を取り壊すことには賛同できかねます。

また、新水族園の運営は都の出資団体の公益財団法人からPFI(※)という民間活用方式になります。すべてが営利目的のみになってしまうまいように注視していかなければなりません。

現在ある樹木について、新施設を作るため伐採を含めての影響を聞いたところ、江口課長は、まだ設計の段階なので分からないとの回答。ネットなどで一書かかれている1400本の樹木の伐採については、樹木医による評価を受けて移植。建物周辺の樹木を配した広場「共生の杜」と散策路を整備するために活用する計画だそうです。

参加者から、今回のネットで誤った情報が流れたのは広報の出し方が下手だったのではないかと思う、情報の出し方を考えた方がいいのでは?との質問には、「私も驚いている。広報のあり方など考えていきたい。」とおっしゃっていました。

引き続き関心を持って注視し続けていきます。

環境部会 原田 真佐子

PFI:公共施設等の建設、維持管理、運営などに民間の資金、ノウハウを活用すること



●インフォメーション●

「江戸川・生活者ネットワーク・2023政策ゼミ」の開催報告と今後の予定

1回目 9月10日(日) / 14:00~15:30
小松川市民ファーム

グループに分かれて、日常生活の中で気になっていることや困ったこと、区政の中で聴きたいことや疑問に思うことなどを出し、テーマごとに分類し発表した。次回までに各自が出したテーマについて調べてくることを決定した。

2回目 10月8日(日) / 14:00~15:30
タワーホール船堀 WEB併用

1回目のまとめの中から、最も関心のあることや課題を再度出し合い、その後、各自が調べてきたことを発表した。そこから4つのテーマが出され、次回再度検討し来年の政策ゼミのテーマを決めることにした。

3回目 11月12日(日) / 14:00~15:30
タワーホール船堀 WEB併用

決定した
4つの
テーマ

- ①身近な化学物質について考えよう
- ②誰にとっても安心な住まいの提供
- ③プラスチックごみ問題
- ④とぎれない若者への支援

第1回目は2024年2月4日(日) 14:00開催。関心のあるテーマで調査・視察などをご一緒にやってみませんか?! これまで出られなかった方も、ぜひ、ご参加ください。お問合せは、江戸川ネットまで。

お問い合わせ・連絡先: 江戸川・生活者ネットワーク TEL: 03-5607-5975 FAX: 03-5607-6158 Email: soreyuke@net.email.ne.jp

気づいてほしい あなたのそばのヤングケアラーに



もとにし 本西 みつえ
江戸川区議会議員

ヤングケアラーという言葉が最近よく聞きます。しかし、「お手伝いをよくする良い子どもじゃないの?」何が問題なの? という声や、「厚労省は1クラスに1人から2人いると言っているけれど、私の周りにはいない。」という声もあります。私自身が介護現場で働いていた頃も、障がいを持つ兄弟姉妹や精神疾患を持つ親の世話を担う子どもの姿を見ることがありました。しかし当時は支援の対象であるとの認識はありませんでした。

先日、江戸川区内でヤングケアラー支援に取り組む、「一般社団法人ケアラーパートナーズの根っこ」主催の連続勉強会に参加しました。勉強会ではヤングケアラーは家族のケアをするのが当たり前となっており、そもそも自身がヤングケアラーであることに気が付かないことや、家族のことは言えない、相談したくないと思ってしまうことを話しました。そして講師の方からは、そのような状況にある子どもたちに対して、家族を思う気持ちを否定したり可哀そうな子どもだと決めつけたりせず、「あなたはひとりではない。」ということ伝えていくことが大切であると言いました。

「コミュニティの場」銭湯



いとう 伊藤 ひとみ
江戸川区議会議員

江戸川区内の銭湯は、2013年には48件ありましたが、今年も後継者不足により2軒廃業し、江戸川区内では27軒だけになりました。

現在、江戸川区浴場組合がスタンプラリーを行っています。5か所回るとオリジナルのタオル、12か所回るとTシャツがもらえます。いろいろな銭湯を楽しんでもらう取り組みで事業の活性化にもつながっています。

また、敬老の日に小中学生が行う「お背中流し隊」は、17年続いています。子どもたちにとって、流し方を教わり高齢者と交流できる機会が貴重な体験であり、今後の復活

を期待しています。

23区でほとんどの区が65歳以上となっている割合も、江戸川区では、昨年より60歳以上に切り替えて、より多くの方々の健康維持を目的に「健康長寿協力湯」として、大人5200円のところで、2500円で利用できるようにしています。

昨年度は1万5799人に健康長寿入浴証の引換券を発送し、引き換えがあったのは、2634人でした。事務手数料なども含めて総額2億7000万円余を助成しています。「コロナの影響もあつたとは思いますが、徐々に以前のようにまちが戻りつつある中で、年齢を問わず一緒に利用できる場所です。沢山の方に利用して欲しいと思います。

それぞれの銭湯がさまざまな工夫をして独自の取り組みを行っており、「コミュニティの場」として、今後も継承すべき地域の財産ではないでしょうか。

生活者ネットワークは
東京の 45年の実績
地域政党です

最も身近な自治体議会に議員を送り、地域から生活の課題を解決していきます。現在33の自治体にそれぞれ生活者ネットワークがあり、区・市議会議員39人、都議会議員1人を擁しています。食品安全、医療、水問題など、東京全体の課題には「東京・生活者ネットワーク」として取り組んでいます。

江戸川・生活者ネットワークのルール

- ◆議員は交代制
議員を職業化・特権化せず、新人議員を送り出すことで政治参加の層を広げ、常に新しい視点や感性を活かした政治改革を実践します。交代後は、市民活動などにその経験を活かし、議員経験者を次々に生み出すことで、政治家まかせ、行政まかせにしない市民を増やす運動をすすめています。江戸川区ではこれまでに7人の女性議員を誕生させてきました。
- ◆議員報酬は市民の活動資金に
生活者ネットワークの議席は市民のためのもの。議員は、報酬から経費を引いた額を生活者ネットに寄付し、市民の活動資金にしています。お金の流れはすべて公開しています。
- ◆選挙はカンパとボランティアで
選挙では、候補者が費用負担することなく、カンパとボランティアで行なっています。